

令和2年7月 21 日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

ただ今から、市長定例記者会見を開催いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

はい。まず冒頭、二つ私からお伝えをしたいことがございます。

まず一つ目は、清水区袖師、興津地区の水道水の濁りの報告であります。大変ご迷惑をお掛けして申し訳ございません。19 日の日曜日の夕餉の時から、約 6,000 世帯の市民の皆さんにご迷惑、ご心配を掛けてしまいました。今日の時点では、この濁りは解消しております。この濁りの原因ですけれども、昭和7年、1932 年ですから、今から 88 年前に開設された清水区北部の清地水源場から興津地区の中町浄水場までの8キロにわたる導水管から大量に漏水が発生をしてしまった、それによって中町の上水道の機能が、いわゆる機能不全ですよ、損なわれてしまったということで、そこから各ご家庭への水道が供給できなくなってしまったということでもあります。これまで興津地区は中町浄水場の配水エリアでありました。そして、水道量が減ってしまったので、西側に位置する大平山の配水池から水を興津地区に供給しようという施策判断をしたわけです。そうすると、今までは北から南に中町に来ていたやつを、そういう流れで東から西に行っていた水の流れが、今度、西から東に、逆に大平山のほうから水が流れていった、水が逆流したことによって、導水管に付着をしていた錆が洗い流されるような格好で、そして東側に行ってしまいました。

で、ドレン作業といいまして、その錆のついたやつを取り出して、そして、排水してしまうというドレン作業をしたんですけれども、それでは間に合わなくて、お宅の水道水のほうにまで行ってしまったということでもあります。で、洗い流しているという作業をする中で、徐々にその濁りが解消されて、原稿にあります、「水の流れが逆となったことにより、水道管に付着をしていた錆が剥がれて濁り水となって市民の皆さんに配られてしまった」というようなことが原因であります、一定の時間が経って、その濁りが現在では解消しているということでもあります。

改めて、老朽化対策、アセットマネジメントの必要性というものを私自身感じましたので、これから水道局と、このことについての検証、あるいは今後の課題について議論していきたいというふうに思っております。いずれにしても、約 6,000 世帯の濁りを発生させてしまったお宅にお住まいの市民の皆様には、ご迷惑お掛けしたことをこの場を借りてお詫びを申し上げたいと思います。

それからもう一つは、毎日報道されています新型コロナウイルス感染症への危機感をもう一度市民の皆さんに喚起をしたいということでもあります。東京では今月17日に過去最多となる 293 名の感染者が発生し、全国的に感染が拡大傾向にあると理解しております。とりわけ東京都内の感染拡大を受け、国は Go To トラベルキャンペーンの割引対象から、東京都との往来が含まれる旅行を除外いたしました。私たち静岡市民の皆さんも東京との不要不急の往来を控えていただくとともに、埼玉県や千葉県、神奈川県や大阪府への移動については、訪問をするかどうかという、この必要性をいま一度検討していただくなど、感染防止に向けた特に慎重な行動をお願いしたいと思います。

す。静岡市でも、社会経済活動も再開しなければいけないという観点から、国や県の観光キャンペーンに合わせて Go To しずおかキャンペーンを実施するために、6月の補正にて予算を措置をしております。観光客を誘致する事業は、暮らしのLifeを取り戻すためには、大変苦境に陥っている観光産業を支援し、地域経済を活性化させるために必要な施策であるとは考えておりますが、開始時期や対象範囲等については状況を慎重に見極める必要があると考えております。

そして、繰り返しになりますけれども、市民の皆さんへ、生命のLifeを守るためにお願いをいたします。日常生活では自分もいつ感染するかわからないということを感じていただき、引き続き、マスクの着用、これについては熱中症にも気を付けていただきながらでありますけれどもマスクの着用。あるいは、手洗いや手指の消毒、3密の空間を回避するなど、国から示されました新しい生活様式を徹底していただきますようお願いいたします。また、ご存じのとおり、熱海市ではカラオケを伴う飲食店でのクラスターが発生してしまいました。事業者の皆さんにおかれましては、各業界団体等に示されております業種別の感染拡大予防のガイドラインに基づく感染防止対策を、いま一度徹底していただきますようお願いいたします。

皆さんの取り組みが、大切なご家族や友人、職場の同僚などの命を守ることにつながり、そして、何より自分自身の命を守ることにつながります。この難局を乗り越えるために、お一人お一人市民の皆さんがより一層の感染防止対策を徹底するようご協力をお願い申し上げます。私からは取り急ぎ以上であります。

【司会】

それでは、ただ今の発言につきまして、ご質問がある方はお願いをいたします。どうぞ。

【テレビ静岡】

テレビ静岡です。先ほどの新型コロナの件で、熱海市でクラスターが発生していると思うんですけども、県内で繁華街を有する静岡市に対し、例えば両替町とかそういったところで、見回りじゃないですけど、そういう注意喚起というか、行うご予定というのは市のほうで何かございますでしょうか。

【静岡市長】

新宿区長が、昨日ですか、そのような取り組みをしているということを報道で見ましたけども、私どもは、今、私が申し上げましたとおり、各お店それぞれの良識に基づいて感染拡大防止をしてほしいというような注意喚起を行っているところであります。

【テレビ静岡】

特に、見回るとか強化するとかというよりも、自主的に感染予防をこれまでどおり徹底してもらってというイメージで・・・

【市長】

そうですね。それぞれの飲食店の良識を信頼したいと思います。

【テレビ静岡】

分かりました。

【司会】

その他いかがでしょうか。はい、どうぞ。

【NHK】

静岡市版のキャンペーンについて、その6月補正の部分ですね、元々これは7月下旬以降に始めるということで、予算が国の交付金を財源に1億円確保されていましたが、例えばこの7月下旬は見送るのかということと、実施するのであれば、どういう状況になったときに実施するという判断をするか、夏休み等々の兼ね合いもあると思いますが、お考えお聞かせください。

【市長】

先ほど申し上げましたとおり、慎重な見極めが必要だろうというふうに思っております。しかし、記者ご指摘のとおり、従前から制度設計していたものだし、社会経済活動の再開というのも一つの大きな目標であります。ですので、例えば県内の移動にとどめるというようなやり方、あるいは、県のほうは山梨県や長野県等々の域内にとどめるという方法であるとか、なんとかこの観光業者の苦境を経済的に支えていくというテーマと、感染拡大防止というテーマを両立するような、そんな工夫をこれから静岡市のほうでもしていきたいというふうに思っております。もし補足があれば、観光交流文化局から説明をお願いいたします。大丈夫ですか。じゃあ、一言お願いします。

【観光・MICE推進課長】

観光・MICE推進課長の岩田と申します。今、市長がおっしゃっていただいたとおりです。今、目下検討中というところでございます。

【NHK】

4連休はさすがに難しいと思いますが、夏休み等々の対応で観光業者さんも気をもんでらっしゃると思いますが、域内に限定するかどうかも含めて遠からず判断されるということなののでしょうか。

【司会】

そういうことです。

【NHK】

分かりました。あと・・・

【市長】

少し課長、補足を。

【観光・MICE推進課長】

すみません。既に6月から、静岡県内の Go To しずおかキャンペーンということで、静岡市のほうは補正の前に対応していたところですので、今、県内の部分については、すでに実施しているというところでございます。

【NHK】

分かりました。あと、国の Go To キャンペーンのいろいろ施策の修正が相次いでることについて、市長の所感をお願いします。

【市長】

ほんとにさまざまなご意見がありましょ。感染拡大防止というのを優先したいという国民の皆さんの声もありますし、また、なんとか少しでも経済的な苦境から抜け出したいという国民の声もありましょ。そんなさまざまな国民の声の中で、ひとつ、こういう政府の方針でいくんだというふうに決めたということですので、それについて私どもはどんな連携ができるのかということを考えていきたいと思っています。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のほうに移りたいと思います。静岡新聞さん、よろしくお願いいたします。

【静岡新聞】

幹事社質問、幹事社静岡新聞から2点質問あり、1点ずつお願いします。

静岡市役所清水庁舎移転の賛否を問う住民投票条例の制定が本請求されました。市議会の一部会派からは、臨時議会の前に現在凍結している清水庁舎移転計画の今後の方針を明らかにすべきとの声があり、先日、市長に対して要望書も提出されました。住民投票条例案が8月3日から議会で審議されることになったことを受けて、従来9月としていた今後の方向性を前倒しで公表する考えはないかお聞きします。

【市長】

前倒して公表するという考えはありません。というのは、この庁舎整備等の事業について、その方向性を出すには一定の時間が必要であるというふうに考えているからです。議会との対話も必要でありますし、いま一度私たち立ち止まって、さまざまなアフターコロナの観点での見直しを、中長期的な見通しも踏まえて考えていかなければならないというふうに思っているからであります。

専門家等の意見も聞きながら慎重に導くべき内容であるということですので、今後の方向性について前倒して公表する考えはないというふうにご理解いただきたいと思います。以上です。

【静岡新聞】

では、2点目いきます。住民投票の署名活動を行った静岡住民投票の会は、本請求の際に、臨時会が開会される前に市長との面会を求めました。長期間にわたった署名活動に対する思いを聞いてほしい、直接聞いてほしいとのことでしたが、先日、本請求の際の市長への囲み取材では市長は検討するというをおっしゃっていましたが、その後、検討の結果、面会についてはどう判断されましたかお聞かせください。

【市長】

前提として三つ、この本請求に対してポイントがあると思います。それは、これまでに多くの市民の皆さんから頂いた意見、それは、新清水庁舎の検討委員会の議論であるとか、それに伴うパブリックコメントであるとか、あるいは、清水のまちなかタウンミーティングであるとか、ワークショップであるとか、そのような声、全て私の下に記録として残っております。

また、二つ目としては、市議会でもこのことはたびたび議論になっており、その経過も踏まえております。さらに、今回本請求に書かれております住民投票条例の制定請求の要旨も受け止めて、法令に基づく二十日以内という限られた時間の中で、将来の清水のまちの姿を思い描きながら、静かな環境で熟慮に熟慮を重ねて市長自身の意見をまとめ、責任を持って市議会に付議していきたいと考えております。

よって、面会の希望には応じかねるということでご理解をいただきたいと思います。なお、要望書に対する回答は、この会見の終了時に事務方から先方にお渡しをする予定であります。

【静岡新聞】

ありがとうございました。

【司会】

それでは、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。恐れ入りますが、社名とお名前をおっしゃってから質問をしていただけるようお願いをいたします。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

【NHK】

NHKです。先日、川勝知事とENEOSの社長の間で交わされた清水港の土地の活用についてお尋ねします。この話、静岡市の姿がその場に見えなかったことを不思議に思った方もいらっしゃったようなんですけれども、この協定について事前に静岡市とは情報共有や意見交換などは、ENEOS、ないしは県とはなかったのかどうかお聞かせください。

【市長】

港湾地区の県の所管の区域でありますので、締結式としてああいうやりとりになったというふうには理解しておりますが、事前に私どももその中でさまざまなコミュニケーションがありました。17日にENEOS株式会社の常務執行役員もお見えになって、今回の計画について丁寧に説明を、私自身受けております。その内容は、太陽光発電を中心とした地産地消によるエネルギー体制の構築であるとか、モビリティサービスを含めた新しいサービスの提供を考えているということでありました。

その時、常務からは、静岡市にも積極的に情報提供しながら、今後のまちづくり全体の姿も見据えつつ連携していき、地域と密着して事業を進めていきたいというふうな発言をいただきましたので、大変心強く思っております。

ぜひ今後は、昨年ビジョンを発表しました清水みなとまちづくり公民連携協議会にもご参画いただき、チームの一員として一緒にまちづくりを進めていけたらいいなというふうに考えております。以上です。

【NHK】

続いて、あの土地については、やはり、先日の実際に、知事と大田社長の会見でもサッカースタジアムへの言及があり、大田社長も検討することがこの先出てくることもあろうかと思うという発言をされて、少なくとも否定的ではないご発言をされています。

あの土地にサッカースタジアムを造ったらどうだというのは去年の市長選でも問われたことですが、実際、市長も構想づくりは公約に掲げてらっしゃいましたが、サッカースタジアム建設について市長はこの議論をリードしていくお考えはあるかお聞かせください。

【市長】

確認ですけども、そのご発言というのはENEOSの方からあったんですか。

【NHK】

そうですね。知事が先にサッカースタジアムが市長選で取り上げられたことを触れた上で、大田社長がその後に、現段階で決まったものではありませんが、当社として事業を具体化していく中で検討させていただく場面があるかと思えますという、このような発言をスタジアムについてなさっております。

【市長】

そうですね。とにかく今は民有地、ENEOS株式会社が持っている土地ですので、その中でどういうふうにされるのかという企業判断になろうと思いますけれども、私たちも、日本平のスタジアムが老朽化をして、今後、移転したいなという気持ちは持っておりますので、そんな中で議論を見守っていききたいなというふうに思っています。

【NHK】

では、議論を見守るという姿勢なのか、他に交通アクセスも考えてもそれほど選択肢がある話ではないと思われますけれども、市長があそこにスタジアムをぜひ造りたいという意味ですとか、議論をリードするお気持ちというのはいかがでしょうか。

【市長】

行政計画というのは順々にやっていく中で、まず先ほど話題になった庁舎の問題をどういうふうにするのかということが優先課題だというふうに承知しております。ここは市有地として責任を持った、意思を持った判断をしていかなければなりません。ただ、その土地は民有地でありますので、先ほど、県知事の発言に対しておっしゃったということであるので、それを尊重していきたいと思っています。

【NHK】

清水庁舎の移転の話を具体化させてから、サッカースタジアムはその先に考えるという順番が、市長の頭の中におありだということでしょうか。

【市長】

公民まちづくりの協議会では、全て2040年頃を想定して、さまざまな議論が行われております。しかし、全て市の思いどおりになるというわけではありませんし、さまざまなステークホルダーの立場との協議の中で決まっていくものであります。

【NHK】

くどいようですが、すいません、市長としてあの土地は一つの候補地になると思っただけなのかどうか、その認識、最後にお聞かせください。

【市長】

それは私ども再三言っておりますように、さまざまな選択肢を考えていきたいということでもあります。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他いかがでしょうか。はい、どうぞ。

【共同通信】

共同通信です。リニア中央新幹線の関係なんですけれども、工事現場に至る林道が被災しております。今日、川勝知事が現地視察に行かれていますけれども、市長として、林道、市道である林道の被災状況はどういうふうを受け止められていらっしゃるかをお聞かせください。

【市長】

私どもの経済局の担当の職員が現地に何度も赴いて、その状況を報告してもらっています。ですので、この復旧作業、復旧工事というものはできるだけ早くしていきたいということを、私自身思っておりますし、その指示をしたところであります。

【共同通信】

続けてで、よろしいですか。

【市長】

お願いします。

【共同通信】

知事は、作業道の安全をJR東海さんとの協議の中で準備工事は認められないということを理由に挙げられていらっしゃるんですけれども、その点市長はどういうふうを受け止められていらっしゃるでしょうか。

【市長】

それは両立し得る議論だろうというふうに私は思っています。なるべくそのことが議論の進展に妨げにならないように、静岡市は復旧作業を急いでいきたいというふうに思っています。

【共同通信】

そうしますと、作業道の安全を確保しないと準備工事が入れないという議論というよりは、作業道の安全も同時に進めながら準備工事にも入れるんじゃないかというお考えだということですか。

【市長】

おっしゃるとおりです。

【共同通信】

分かりました。

【市長】

やはり大局的に議論は進めていただきたいというふうに願っています。

【共同通信】

すいません、ちょっと続けてなんです、大局的っていうのは具体的にどういった形での議論ということなんでしょうか。

【市長】

水の問題をどうするかということと、リニアの開通ということをどうするかという現在の二つのテーマを両立するような、あるいは、局地的なことではなくて、静岡県だけのことではなくて、これは国全体の今後の問題だというふうに注目も集めておりますので、その辺で大局的に、JRの金子社長と川勝県知事さんはその当事者ですので、そういう視点に立って直接の会談を積み重ねていって合意点を見いだしてほしいなというのは私の願いであります。

【司会】

その他いかがでしょうか。はい、どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。リニアの件でなんですけれども。ヤード整備ないし本体工事というのを静岡市で行われていて、行政手続きのほとんどが静岡市を通して行われると思うんですけど、流域市町の意見は、知事が知事とウェブ会議か何かでやり合ったりして聞こえてくるんですけど、そういった場に静岡市が入っていないっていうのがちょっと個人的には疑問なんですけれども、そういった場に加わりたいとか、そういった思っているのはあるんでしょうか。

【市長】

やはりこれ大井川水系の流域であります。そして、私ども最上流部の井川地区を所管しているわけですけれども、実際利水関係者で一番この問題についてセンシティブな気持ちを持っているのがこの自治体の皆さまですので、私たちはその市長、町長、行政関係者からもきちっと気持ちを受けておりますので、議論を見守っていきなというふうに思っています。また、それぞれの法令に従ってやる工事の件は、粛々とわれわれはこれに基づいてやっていくということで取り組んでおりますので、コミュニケーションは取れているというふうに判断しています。

【司会】

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ここでちょっとお時間をいただき・・・、どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。静岡大学の再編について、大学設置審議会の申請まで残り2カ月という期限が迫っていると思いますけれど、その中で、今日3回目の静岡市と大学の協議会があって、この溝を埋めていく中で2カ月何が必要だとお考えですか。

地元理解が得られていないという現状があるじゃないですか。もう残り2カ月と時間がない中で、現状、大学と地元として溝を埋めるために、市として、再三求めているとは思いますが、何を求めていきたいですか、改めて。

【市長】

これは、将来の静岡大学が、世界から、とりわけアジア地域から魅力を持って学生さんが集まってもらえるような、そういう大学になってほしいということ。そのためにこの議論というのは、協議会でさまざまな意見を言い合う受け皿を作ったというのが・・・残念ながらコロナ禍の中で、前回ウェブでの、あるいは書面の決議になってしまったというのは残念ですけども、副市長に議論に参加してもらっておりますので、大局的にこれも、逆にアフターコロナの時代の大学の在り方っていうのはどうなんだろうかと。これも申し上げたことがありますけれども、フェイス トゥ フェイスの授業もぜひ活動では必要でありますし、あるいは、オンラインの授業というものも、距離の離れたキャンパスであるならば、予備校なんかでも、これ当たり前になっていますけれども、アフターコロナの時代、もっともっと、このリモート化というものが進んでいくでしょう。そんな技術を使って距離のハンディキャップっていうのは超えられる時代が来るのではないかと。これもアフターコロナの大学の在り方として、やはり伝統と歴史あるそれぞれの個性を持った全ての学部が一つの大学としてこれからも運営をし続けるということも、ありなのではないかなというふうにも思っておるところであります。副市長から少し補足があればお願いをしたいところでもありますけれども、そんなことを協議会でやはりきちっと、アフターコロナのことが直面したからこそ、これを一つの機会と捉えて私たちの意見を表現していきたいというふうに思っています。何か補足があれば。

【小長谷副市長】

副市長の小長谷です。今、市長からお話がありましたように、これまで2回の協議会開かれているんですけど、特に2回目につきましては、静岡大学から示された静岡大学のお考えについてのそれぞれの考え方について書面で意見表明があったということでもあります。で、今回は一堂に会して、委員が一堂に会して議論を深めるということでありまして、今日は十分な議論の時間があるということを持っておりますので、さまざまな議論がなされるものというふうに考えております。以上です。

【司会】

ここでちょっとお時間をいただきまして、前回の会見について説明をさせていただきたいと思います。前回の会見で、本日もいらっしゃいますが、NHKの記者の質問を遮ってしまうという形になってしまいました。今後、進行に疑義が生じた場合にはですね、広報課の独自の判断だけではなく、記者の皆さんと相談しながら、進行させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。また、前回の会見につきましては、『何があったのか説明してほしい』といった市民の声をいただきました。したがって、市長の方からそこらへんについて、説明をさせていただきたいと思います。市長、よろしく願いします。

【市長】

7月7日の会見の様子をライブ配信でご覧いただいたという方々から、今、説明がありましたとおり、市民の声システムを通じて、『何があったのか説明してほしい』といった、ご意見がありました。

そこで、この場をお借りして、前回の私の発言について、私が認識しているNHKの記者とのやりとりの経緯について説明したいと思います。

まず、申し上げたいことは、私と報道機関の記者の皆さん一人ひとり是对等な立場であるということです。記者の皆さんから面会の申し入れがあれば、できるだけお会いするようにしているつもりであります。昨年、記者から「市長と面会をしたい」との申し入れを受けました。そして、昨年12月27日に、2人でお会いをしました。その後、記者から「その時の市長の発言について、真意を確認させていただきたいので、面会したい」との再度の要望を受けて、今年3月11日に2人でお会いしました。その他にも、電話で直接、お話しをしたこともあります。この一連のやりとりの中で、前回、記者がおっしゃった「自分の都合の悪いものを抑え込もうとなさる姿勢」と捉えられてしまったような、私の発言があったということです。

しかし、この一連のやりとりの中で、決して、記者に対して「市にとって都合の悪いことを報道しないで」というようなことをお願いしたわけではございません。人生の先輩として、ややアドバイスめいたことを申し上げてしまったのですが、私の力不足で、その意図を伝えきれなかっただけではなく、結果的に記者を傷つけてしまった。「ご自分の都合の悪いものを抑え込もうとする」とか、「妨害するような、押さえつけるような」、記者のおっしゃるような意図はなかったと私は思っていますが、しかし、結果的に記者を傷つけてしまったということは、私の力不足であり、3月11日の面会の時に、撤回・謝罪をさせていただきまし、前回の7日の会見でも改めてお詫びをし、発言の撤回をしたところでもあります。

SDGsの理念でもある「誰一人置き去りにしない」。これは私自身の信条であり、静岡市の理念でもあります。社会的な弱者を大切にするという考え方のもと、静岡市としても、ハラスメントに係る相談窓口を市民局や経済局に設けているなど、体制を整えておりますので、今後も弱い立場の方々からの訴えをしっかりと受け止めていきたいと思ひます。ご理解いただきたいと思ひます。

【司会】

それでは、この件につきまして、記者の皆様からのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

【静岡新聞】

静岡新聞です。先日、記者が、市長の発言を、こういうふうなことを言われたという発言、今、議事録、会見録にも残っているんですけど、その発言は、そのまま一字一句そのままされたということでよろしいですか。

【市長】

それはやりとりですのでね、一字一句ということではありません。ただし、それもすでに、私はお詫びし、撤回をしておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

【静岡新聞】

一字一句ということであれでしたら、NHKの何々さんとは友達だと、何々さんは、今、幹部だみたいな形で、上の人間と親しいような表現をされたというのは間違いないですか。

【市長】

皆さんが心配をしているというのは間違いありません。

【静岡新聞】

その後、追求する、批判するというスタイルでやりたいならフリーでやったほうがいい、というようなことを言われているんですけど、これもそのままおっしゃっている？

【市長】

やりとりの中で、記者の個性であるとか、取材の仕方とかある中で、職員の気持ちも代弁させていただいたということで、そういう発言があったということでもあります。

【静岡新聞】

その発言について、人生の先輩としてのアドバイスとしてやったということによろしいですか。

【市長】

そんなね、理屈でどうこうということではありません。記者も、いつもそこは阿吽の呼吸で様々な取材活動をされているというふうにお見受けしますので、ご理解いただきたいと思ひます。

【司会】

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で市長の定例記者会見を終わらせて
いただきたいと思います。